

バレーボールのルール変更におけるプレイヤーと見る側の観点の違い

麻生川 康志 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 新井 博

キーワード：バレーボール,オリンピック,ルール変更

1. 緒言

自分がバレーボールをしていた時、何度かルールが変更された。また、昔にもたくさんのルール変更がされていたことを知った。従来はオリンピックのたび4年ごとのルール変更だったが、1994年からは変更頻度が上がった。これほど頻繁にルールが変更されているスポーツはめずらしい。こんなにも頻繁にルール変更がされている背景として、スムーズな試合進行やメディア向けのスポーツにするという点から頻繁にルールが変更されてきた。このようにメディア向けにルールが変更されてきたはずなのだが、見ている側はルール変更がされていることに気付いていない、またどう変更されたか気付くことができていないと思った。

そこで本研究では、バレーボールのルール変更におけるプレイヤーと見る側の観点の違いを明らかにすることを目的とする。ルール変更による観点の違いを明らかにすることは、今後のバレーボールの人気向上に繋がると考えている。

2. 研究方法

本研究の調査対象は、ここ10年間でルール変更時にバレーボールを行っていたもの約30名を調査の対象にアンケートを行う。バレーボールを経験していない人約30名を調査の対象にアンケートを行う。

3. 結果と考察

ルール変更によって、プレイヤーはルール変更によって、戦略が変わり、常々新しい戦い方を探す。そしてチームによって有利になったり不

利になったりすることがわかった。見る側は、戦略を楽しむのではなく、多くの選手を見ることや、長いプレーを見ることに面白さを感じている。ルール変更で、よりダイナミックなプレーや公平な試合運びに、満足感を得ることがわかった。プレイヤーはルール変更が必要と答えた人が多かったのに対し、見る側はルール変更は必要ないと答えた人が多かった。また、ルール変更は、見ている側にも影響を与えると考えたのは、プレイヤーだけでなく、見ている側も影響を与えると考えている人は多かった。しかし、見ている側でルール変更に気付いている人は、極端に少ないように思えた。したがって、ルール変更は必要とは思わないが、変更されれば何らかの影響を受けるのではないかと見ている側は考えている。しかし、ルールが変更したことを知っている人はかなり少なかった。

4. まとめ

本研究では、ルール変更に対して、プレイヤーは敏感に反応している。見る側は、あまり理解していなかった。

引用・参考文献

- (1) 池川九造 (1985) バレーボールルール変遷とその背景
- (2) 日本文化社と吉田康伸 (2003) バレーボールにおけるルール改正に伴う戦術の変化についての研究、法政大学体育・スポーツ研究センター紀要 P.21.